

4

Social

社会

Safety

安全

4 社会

【安全】

36

> 基本的な考え方

37

安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

基本的な考え方

「交通事故ゼロ社会」の実現に向けて

Hondaは、「Safety for Everyone」のグローバル安全スローガンのもと、2050年に全世界で、Hondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故※1死者ゼロをめざしています。また、そのマイルストーンとして2030年に全世界でHondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故死者の半減※2を目指しています。これらは、新車だけでなく、市場に現存するすべての二輪車、四輪車が対象となります。Hondaは、人の能力（啓発活動）、モビリティの性能（技術開発）、交通エコシステム（他者との協働やシステム／サービス開発）の3つの要素を個別に進化させるとともにそれぞれを組み合わせることで、さまざまな要因により引き起こされる事故に対応してきました。今後、2030年に向けた大きな課題は、新興国で二輪車が関与する死亡事故です。Hondaは二輪車を世界で最も多く提供するメーカーとして、この課題に積極的に取り組んでいくことを社会的責任として捉えており、幅広い方々を対象とした啓発活動とともに二輪車へ「ABS※3」「CBS※4」などの先進ブレーキ、視認性および被視認性の高い灯火器などの装備を搭載しています。

※1 Hondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故：Hondaの二輪車・四輪車乗車中、および歩行者・自転車（故意による悪質なルール違反、責任能力のない状態を除く交通参加者）が関与する交通事故。

※2 2020年比。

※3 ABS：Anti-lock Brake System（アンチロックブレーキシステム）の略。

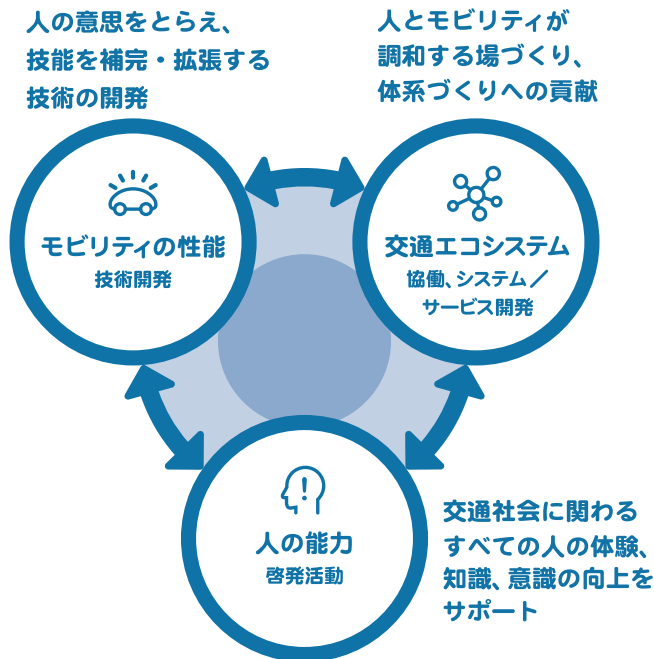
※4 CBS：Combind Brake System（コンバインドブレーキシステム）の略。

グローバル安全スローガン

Safety for Everyone

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、
道を使うだれもが安全でいられる
「事故に遭わない社会」をつくりたい

安全3つの要素



4 社会

【安全】

36

> 基本的な考え方

37

安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

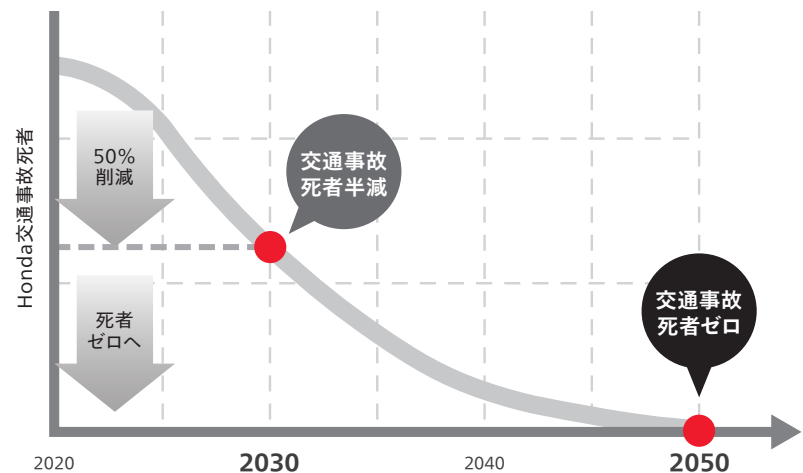
115

基本的な考え方

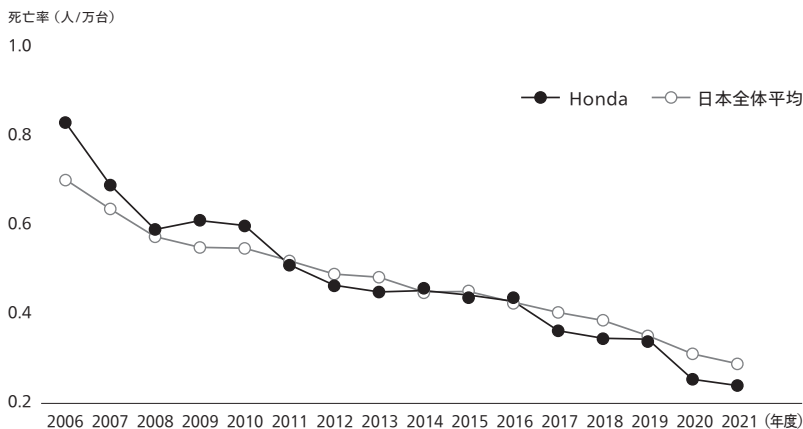
また四輪車については、新興国、先進国での事故低減に有効な先進運転支援システム（ADAS）の機能進化と普及を積極的に推し進めています。

そして、その先にある2050年に向けた大きな課題は、全世界における、歩行者や自転車に乗る人、ライダーなどの交通弱者の死亡事故です。この課題対応にあたっては、すべての交通参加者である人とモビリティが通信でつながることで、事故が起きる手前でリスクを予兆・回避をサポートする「安全・安心ネットワーク技術」の研究開発などを推し進め、Hondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故死者ゼロをめざしていきます。

Honda 安全目標 2050年に向けたマイルストーン

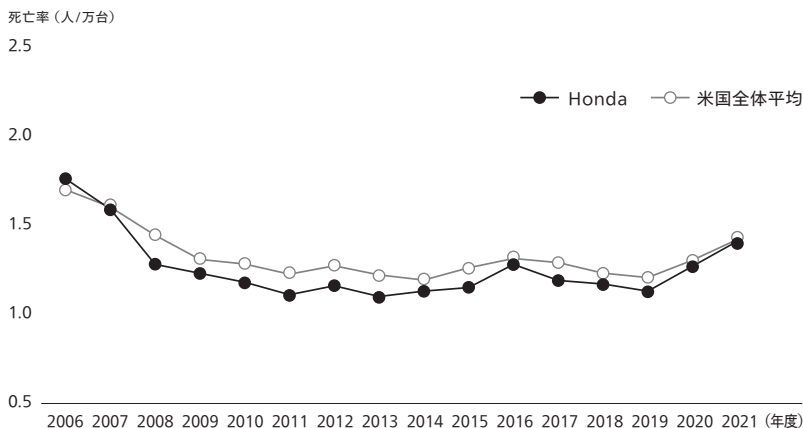


四輪車関与死亡率推移保有台数1万台当たり 日本



出典：公益財団法人交通事故総合分析センターのデータよりHonda調べ。日本全体は、各年交通統計より自動車および原動機付自転車を対象

四輪車関与死亡率推移保有台数1万台当たり 北米



出典：NHTSA Fatality Analysis Reporting System (FARS) データよりHonda調べ。米国全体は、Traffic Safety FactよりFatality Rate per Registered Vehicles

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

人の能力

Hondaのアプローチ

Hondaは、1970年に安全運転普及本部を設立しました。1972年には、本部内に海外活動を推進するための部門が発足し、海外でも各国に交通教育センター※を設置したほか、地域の販売店と協力するなど、活動を拡大してきました。2024年3月現在、Hondaは日本を含む世界43の国と地域で、安全運転普及活動を実施しています。

活動は、販売店の店頭で直接お客様に安全をお伝えする「人から人への手渡しの安全」と、専用のコースで専門のインストラクターが指導する「参加体験型の実践教育」を基本としています。

日本においては、交通教育センターをはじめ、二輪車・四輪車の販売会社、地域の指導者や関係会社の皆様と協力しながら、子どもから高齢者ま

交通安全・運転教育の実施国・地域

で各年代に応じた安全をお届けする活動を展開し、これまでに679万人以上の方々に参加・受講いただいています。

海外の活動のなかでも新興国においては、急速なモータリゼーションが進む一方で、法規制や交通ルール、道路インフラなどが未整備の地域があり、交通死亡事故発生件数の増加が社会的な課題となっています。

とくに交通事故の多いアジア諸国においては、日本で培った人材育成や教材づくりのノウハウ提供などを積極的に行い、2023年度は約450万人の方に教育プログラムを受講いただきました。

そして、Hondaでは、政府や関係諸団体とも連携をとりながら、各国の交通状況に即した活動を実施しています。



※ 交通教育センター：交通安全に関する社内外の指導者養成や、企業・学校・個人のお客様に安全運転教育を行うHondaの施設。

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

人の能力

2023年度の活動実績

海外での取り組み

■タイホンダとタイ運輸省陸運局が「危険認知プログラム」の開発に関する覚書を締結

2023年4月、タイホンダマニュファクチャリングカンパニー・リミテッド（以下、タイホンダ）とタイ運輸省陸運局との間で、交通事故防止に向けた「危険認知プログラム」の開発に関する覚書を締結しました。タイホンダは、タイ国内における二輪車・パワープロダクツの生産・販売会社で、これまで同社が30年以上にわたり培った交通事故防止に関する知見を、運輸省陸運局と連携して自国の運転免許取得予定者や若者への啓発・教育に取り入れることで、交通事故件数と死者数の大幅削減をめざしていきます。今後は、タイホンダが制作したアニメーション動画をベースに、運輸省陸運局が新たに実写動画化し、運転免許取得者向けなどで広く活用される予定です。



覚書締結式



交通事故防止のアニメーション動画

■米国にて「Honda Driver Coaching」アプリをリリース

2023年6月、運転診断やリアルタイム音声アドバイス機能により、安全運転の習得をサポートする若年層向けの「Honda Driver Coaching」アプリを米国にてリリースしました。新興国のライダー向けにもこのような安全運転コーチングのシステムを展開することを視野に入れています。



Honda Driver Coaching App（米国）

■アメリカンホンダモーターが、ディスカバリーエデュケーションと提携

2023年10月、Hondaの米国の現地法人アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッドとディスカバリーエデュケーションは、米国における若年ドライバーによる交通死亡事故に対処するための新たな施策“Honda Safety Driven”を開始しました。“Honda Safety Driven”では、教育者向けのガイドや、教室での授業、家族間でのディスカッションガイドなど、さまざまなデジタルリソースのコレクションを通じて、交通安全のスキルや教材を提供します。

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

人の能力

■ アジア・大洋州地域での安全運転教育のスキルの向上と内容充実

2024年2月、タイにて第2回アジア・大洋州地域安全運転インストラクター競技大会を開催しました。本大会は、安全運転インストラクターの運転知識・技術の研鑽と相互交流により安全運転普及活動の基本的な考え方を共有することを目的としています。競技は、二輪車・四輪車の技術部門と指導力部門で構成され、全8つの国と地域から総勢121名が参加しました。

また現地法人のアソシエイトに向けたHonda SENSINGの体感研修会を開催しました。体感研修会では、ドライバーの誤解や過信が起こりやすい「衝突軽減ブレーキ（CMBS※）」を中心に実施しました。今後、参加したアソシエイトによる、お客様向けの体感試乗会の開催を予定しております。



競技大会



体感研修会

※ CMBS：Collision Mitigation Brake Systemの略

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

人の能力

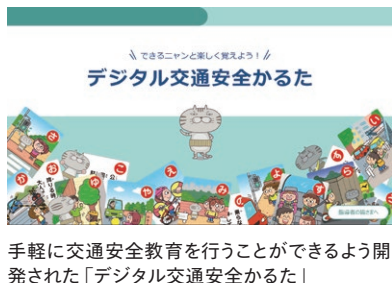
日本国内での取り組み

■日常的に継続可能な教育をめざした教材の開発

日本においては、各地域で交通安全活動を行う交通安全指導者の方々に向けて教育プログラムや指導方法を提供しています。

多くの小学校では年に数回、交通安全指導者による交通安全教室が実施されていますが、効果検証により教室直後は歩行状態の改善などの行動変容が見られるものの時間の経過とともに教室前の水準に戻ってしまうことがわかりました。そこでHondaは交通安全教室だけでなく、日常的に継続した教育が可能となるよう、先生方にご意見をうかがいながら「デジタル交通安全かるた」を開発し、小学校を対象に無償配布しています。

交通安全教育の授業時間を確保することが難しいなか、朝の会や帰りの会の時間を利用して手軽に行え、クイズ形式で子どもたちも楽しみながら交通安全の意識を高めることができると先生方からも好評をいただいております。



子どもたちが絵柄を見ながら何が危険かを考える

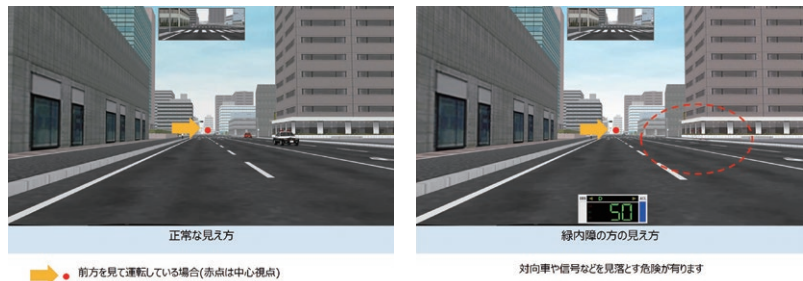
■高齢化社会での移動の喜びの拡張

Hondaは、長年培ってきた安全運転や危険予測トレーニング（KYT）のノウハウを活かし、実際の交通状況を想定しながら危険を安全に体験できるシミュレーターなどの教育機器の開発・普及を行っています。

そのなかでもHondaは視野障がいの原因となって起こる交通事故に着目し、緑内障を患っている方の視野を疑似体験できるシミュレーターを開発しました。

このシミュレーターを眼鏡専門店チェーン株式会社パリミキの店舗に設置し、来店されたお客様に正常な方の視野と緑内障の方の視野を比較体験していただけるイベントを実施しました。実際に利用されたお客様からは安全確認の重要性についてあらためて認識できた、緑内障の危険について家族と話したいなどのお声をいただいております。

これからも緑内障疑似体験シミュレーターを多くの方々に活用いただけるよう啓発の場と機会を提供してまいります。



正常な見え方と比べると緑内障の方の見え方では対向車が見えていないことがわかる

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

モビリティの性能

Hondaのアプローチ

Hondaは、二輪車、四輪車などさまざまなモビリティが混在するリアルワールド（現実の交通環境下）における事故の実態を把握し、メカニズムを細密に解析しながら、技術開発を進めてきました。

四輪車との衝突時の人体の挙動を再現する実物大のモデル人形「歩行者ダミー」（世界初※1）の開発や、より現実 に即した事故形態の研究を可能とした「屋内型 全方位衝突実験施設」（世界初）の建設、そして、四輪車では、「運転席用SRSエアバッグシステム」、「コンパティビリティ対応ボディ※2」「衝突軽減ブレーキ（CMBS※3）」（世界初）、二輪車では、量産の「二輪車用エアバッグシステム」（世界初）など新たな技術を開発し、世に送り出してきました。

2014年からは事故回避を支援する安全運転支援システム「Honda SENSING」の四輪車への適用を拡大しています。そして、2022年には「Honda SENSING 360」の展開を開始しました。「Honda SENSING 360」は、2021年に世界で初めて自動運転技術※4を実用化した「Honda SENSING Elite」の研究開発で培われた知見を活かした技術です。

今後、先進国では2030年までに、この「Honda SENSING 360」や先進の事故自動通報システム、そして、より強化した歩行者保護・衝突安全技术など、Hondaが想定した死亡事故シーンを広範囲にカバーする技術を四輪全機種で適用することをめざします。

また、新興国では、大きな課題である、二輪車が関与する死亡事故の対応として、二輪検知機能を備えた「Honda SENSING」の四輪車全機種への適用を進めています。二輪車においては、より多くの機種へ「ABS」「CBS」などの先進ブレーキ、視認性および被視認性の高い灯火器の適用拡大をめざします。



歩行者ダミー



屋内型 全方位衝突実験施設



運転席用SRSエアバッグシステム



二輪車用エアバッグシステム



衝突軽減ブレーキ（CMBS）



Honda SENSING Elite

※ 1 Honda調べ。
 ※ 2 四輪車同士が相互に衝突するときの衝突エネルギーを、エンジンルームで効率良く分散・吸収することにより、自己保護性能を大幅に向上するとともに、相手車両への攻撃性を低減する、衝突安全ボディ。
 ※ 3 CMBS：Collision Mitigation Brake Systemの略。
 ※ 4 自動運転レベル3に該当する自動運転技術。自動運転レベル3は、日本政府が定める自動運転の定義（SAEに準拠）で、一定の条件下においてシステムが周辺の交通状況を監視するとともに運転操作を代行します。システムが使用可能な条件から外れる場合は、警報を発して直ちにドライバーに運転代行をすることが求められます。

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

モビリティの性能

2023年の活動実績

2030年のマイルストーン達成に向けて、四輪車においては、Hondaの先進運転支援システムの普及と機能進化が重要な位置づけにあります。

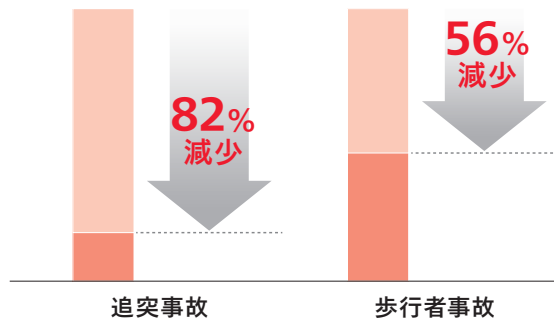
Hondaの先進運転支援システムの1つである「Honda SENSING」は2014年より展開していますが、日本でこのシステムを搭載した軽自動車「N-BOX」では、追突事故は82%減少、歩行者事故は56%減少※1しており、事故削減への効果が確認されています。

今後、「Honda SENSING」は、二輪検知機能を備えた仕様を2030年までに新興国を含む全世界の四輪全機種へ展開することを目標としています。

2023年度は、新興国※2での適用率が60%、先進国※3での適用率が94%となりました。先進国においては、2030年までに「Honda SENSING 360」を四輪全機種へ展開することを目標としており、2022年に中国で発売されたCR-Vを皮切りに搭載を開始しています。

また、二輪車においては、より多くの機種へ「ABS」「CBS」などの先進ブレーキ、視認性および被視認性の高い灯火器の適用拡大をめざしており、2023年度は、新興国※4での先進ブレーキの適用率が85%となりました。

Honda SENSING 搭載車の事故削減効果 (N-BOX)



※1 N-BOX AEB 非搭載車に対するHonda SENSING 搭載車の登録台数当たり交通事故死傷者数調査結果の差分。公益財団法人交通事故総合分析センターのデータをもとに、Honda調べ。

※2 インド、インドネシア、マレーシア、タイ、ブラジル。

※3 日本、米国、中国、欧州。

※4 インド、インドネシア、ベトナム、タイ、ブラジル。

新興国※2 四輪「Honda SENSING」適用率

適用率 (2023年)
60%

先進国※3 四輪「Honda SENSING」／「Honda SENSING 360」適用率

適用率 (2023年)
94%

新興国※4 二輪 先進ブレーキ「ABS」／「CBS」適用率

適用率 (2023年)
85%

Honda ESG Data Book 2024 44

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

モビリティの性能

2024年3月「Honda SENSING 360」を日本向けとして初めて新型アコードに搭載しました。「Honda SENSING 360」は、フロントセンサーカメラに加え、フロントレーダーと各コーナーに計5台のミリ波レーダーを装備することによって360°センシング※を実現しています。衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、交差点での出会い頭車両に加え、右左折をする際に歩行者を検知するなど、従来の「Honda SENSING」が持つ機能を進化させ、さらに前方交差車両警報、車線変更時衝突抑制機能、車線変更支援機能を加えることで、より安心・安全な運転環境を提供します。

Honda SENSING 360の主な特長

■衝突軽減ブレーキ（CMBS）の進化

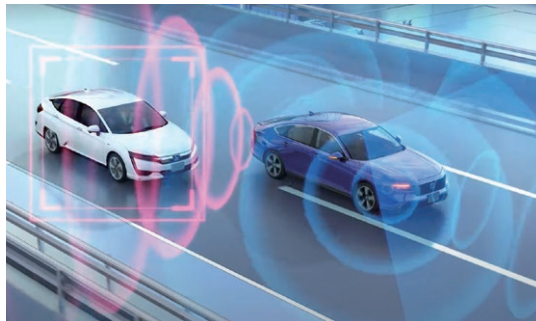
従来のHonda SENSINGのCMBSをさらに進化させ、検知範囲を前方から全方位に広げることで、交差点の出会い頭における衝突回避・被害軽減を支援します。

■前方交差車両警報

停車からの発進時または低速走行時に、左右前方から接近する交差車両の情報を通知します。



Honda SENSING 360 前方交差車両警報



Honda SENSING 360 車線変更時衝突抑制機能

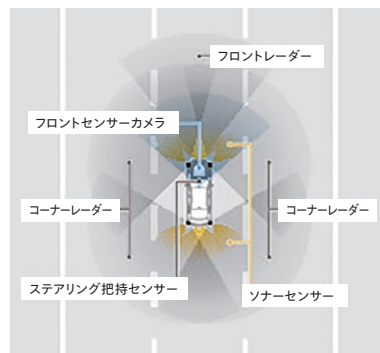
■車線変更時衝突抑制機能

車線変更時、後方から接近する隣接車線の車両を検知し、警報とステアリング操作支援で衝突を回避します。

■車線変更支援機能

高速道路および自動車専用道路においてウインカー操作があった際、周辺状況を検知し、車線変更のステアリング操作を支援します。

なお、2025年には、ドライバーの異常や周辺の環境を的確に検知し事故のリスクを減らすことで、ドライバーの運転負荷をさらに軽減させることをめざした「Honda SENSING 360+」をアコードに搭載し、発売する予定です。



Honda SENSING 360+



Honda SENSING 360 車線変更支援機能

※ Honda SENSING 360の検知性能には限界があり、ドライバーの目視確認を不要とするものではありません。

4 社会

【安全】

36

基本的な考え方

37

> 安全に関する取り組み

39

【品質】

49

【人権】

65

【人材】

72

【サプライチェーン】

98

【社会貢献活動】

115

安全に関する取り組み

交通エコシステム

Hondaのアプローチ

Hondaは、1998年に日本において、Honda車から収集した走行データを活用した渋滞情報や災害情報などをドライバーに提供し、安全運転を支援する通信機能を備えたカーナビゲーションシステム「インターナビ」の展開を始めました。

2013年には、この「インターナビ」で得られた急ブレーキ情報や警察・自治体からの交通事故情報、地域の方々から提供された道路情報などを解析し、Hondaのホームページ上であらかじめ事故多発エリアなどを知ることのできる「SAFETY MAP」のサービスも進めており、地方自治体などには路面標示の追加などの道路改善にもご活用いただいています。こうした取り組みはその後進化し、2017年からはリアルタイムに危険箇所を地図上に表示する「Honda Drive Data Service」として、防災、交通事故防止などの社会課題解決につながるデータサービスを開始しています。また、車両のコネクテッド技術を活用し、交通事故発生時の車両のデータから死亡重傷確率推定アルゴリズムを用いて乗員の死亡重傷確率を推定し、ドク

ターヘリ基地病院に通報することにより、ドクターヘリやドクターカーの出勤を早期判断する「先進事故自動通報システム※」の運用も行っています。

また、将来に向けては、すべての交通参加者である人とモビリティが通信でつながることで、事故が起きる手前でリスクを予兆し、回避をサポートする「安全・安心ネットワーク技術」の開発を進めています。

「安全・安心ネットワーク技術」は、すべての交通参加者の情報を集約し、交通環境を再現するデジタルツイン技術を活用しています。Honda独自の技術により交通参加者の状態・特性を判断、仮想空間上に反映することで、人の行動も踏まえて交通事故の発生を予測するという特徴を持ちます。交通参加者へは、この予測から得た交通事故を未然に防ぐための支援情報を知らせることで、事故が起こり得る手前で回避行動を促します。

Hondaは、この「安全・安心ネットワーク技術」を2030年以降に社会実装することをめざし、業界・官民一体の取り組みを加速させています。

安全・安心ネットワーク技術

革新的なリスク予兆型技術で、リスクに近づかない安心を提供

※ エアバッグ展開時に、正確な位置情報、傷害予測を行い緊急救命に役立つ車両衝突情報を自動通報するシステム。今後、対象範囲を対歩行者事故、対二輪車事故へ広げたシステムを開発予定。

